



創立
25周年

令和5年度(第12回)定時総会・第25回「信州エコ大賞」表彰式

令和5年度定時総会が10月11日(水)に長野市内のホテル国際21で開催されました。決議事項の「令和4年度事業報告・収支決算」「役員選任」は原案どおり承認され、報告事項の「令和5年度事業計画・収支予算」について説明しました。総会に続き、「信州エコ大賞」表彰式および前環境事務次官で日本製鉄株式会社顧問の中井徳太郎氏をお招きした記念講演会(要旨は新年号に掲載予定)を行い、さらに記念パーティを開いて、創立25周年を晴れやかに祝いました。総会での挨拶を抜粋してご紹介します。

●山浦愛幸 会長

四半世紀前の協会創立時の想いとは裏腹に、私たちを取り巻く環境は悪化の一途を辿っています。今夏は北半球全体で猛暑となり、国連のグテーレス事務総長も



「地球は沸騰化の時代に入った」と警告しました。気候変動は徐々に進行するため、“ゆで蛙”のように取り返しのつかない状況にならないよう、協会としては、環境問題に取り組む意識を高めるために頑張りたいと思いますので、皆様の一層のご協力をよろしく願います。

●長野県環境部長 諏訪孝治様

県では、省エネ家電の購入支援を継続している他、通勤時におけるマイカーから公共交通機関への転換、自動車のEV化の促進を図るために必要な経費を、9月の補正予算に盛り込みました。また、9月県議会の定例会に「長野県地域と調和した太陽光発電事業の



推進に関する条例」を提出して、過日、可決成立しました。いわゆる野立ての太陽光発電は、地域住民等と事業者との間に摩擦が生じる事例が散見されますが、この条例によってルールを設けましたので、再生可能エネルギーの生産拡大につながればと思っております。

●八十二銀行頭取 松下正樹様

協会の設立趣意に「子孫への遺産として、少なくとも現在程度の環境を残していきたい」とありますが、その“今”の環境がどんどん悪化しています。当行では、信州Greenでんき、Jクレジットの購入、新築店舗のZEB化によって、今年度CO₂排出量ネットゼロをほぼ達成しました。2030年度のCO₂排出量を2013年度比60%削減という目標に向け、子会社を通じて発電所を設置するなど取り組みを進めます。創立25周年の今日が、環境悪化を止めるため、積極的な行動に移すきっかけの日になればと思います。



総会に引き続き、「信州エコ大賞」の表彰式が執り行われました。今回は5支部から8件の推薦があり、審査の結果、以下のとおり受賞されました。

[個人・団体の部]

信州エコ大賞

中信地区環境教育ネットワーク (松本市)

NPO 法人いなだに竹Links (飯田市)

奨励賞 該当なし

[企業の部]

信州エコ大賞企業賞

株式会社新井製作所 (須坂市)

三洋グラビア株式会社 (伊那市)



左より) 山浦会長/中信地区環境教育ネットワーク 副代表 傘木宏夫様/いなだに竹 Links 代表理事 曾根原宗夫様/新井製作所 代表取締役社長 新井達也様/三洋グラビア 取締役営業本部長 原卓実様

第25回(2023年) 信州エコ大賞 受賞者紹介

個人・団体の部

信州エコ大賞

* 審査会の講評(授賞理由)より抜粋

● 中信地区環境教育ネットワーク(松本市)



小中学校における環境教育を企業や市民の立場から支援し、学校現場に自然体験を中心とするプログラムを提供しています。様々な講師団体がネットワークを組み、事務局が講師団体と学校をつなぐコーディネイト役を務めることにより、小中学校への質の高い講座の提供が可能となっています。2022年度までに延べ261校にプログラムを提供、参加児童生徒数は延べ25,151名を数えます。(写真は過去の実施講座)

コーディネイト機能は表舞台に出にくい活動ですが、学校現場の要望を的確につかみ、担任との信頼関係を築く上できわめて重要であり、この機能があることが多彩な学習プログラムの提供につながっています。コーディネイトという役割の価値と重要性が社会的に広く認知され、県内他地域にもこうした取り組みが波及していくことが期待されます。



● NPO 法人いなだに竹Links(飯田市)



天竜川の景勝地である^{がけりゅうきょう}驚流峡で放置竹林を伐採し景観整備などを進めてきた「天竜川驚流峡復活プロジェクト」が活動の母体となっています。「伊那谷」の「竹林」を通して「地区」同志の「輪」を広げ「リンク(連携)」させたいという代表の思いから2021年に法人化し、活動エリアを拡げてきました。景観整備だけでなく、成長しすぎたタケノコをメンマに加工し「いなちく」として販売しているほか、竹炭の商品化を図るなど、竹資源の有効活用にも力を入れています。地元住民や学生ボランティアとの連携、地元の児童・生徒等を対象とした体験学習・環境教育の実施など、幅広い取り組みも行っています。また、全国レベルでも竹の活用サミットが開催され、横の繋がりも生まれています。



[写真] 左列) 上から 竹林整備風景/竹灯籠/竹網バーベキュー
右列) 上から 大学生ボランティア団体「IVUSA」・竜丘小学校との連携

企業の部

信州エコ大賞企業賞

●株式会社新井製作所(須坂市)



発泡スチロール成型用金型製造を主な事業内容としてきた企業ですが、県内における再生可能エネルギー利用の可能性に着目し、得意とする回転軸技術とアルミ加工技術を活かした小水力発電設備の開発・普及に取り組んでいます。地元の産官学連携により、メンテナンスのしやすい高効率の小水力発電用水車及び発電ユニットの開発と製造、小水力発電所の建設に注力しています(※エコシン No.236 をご参照ください)。

加えて、建屋と一体化した小水力発電用ユニット[写真上]の製造にあたっては、外注先をほぼ須坂市内とし、メンテナンスにも有利な地域循環型製造を心がけています。小水力発電は、地域の農業用水の有効利用に繋がっていると同時に、発電設備が地域の子どもたちへの環境教育にも役立てられています。

さらに、県 SDGs 推進企業に登録し、自社工場屋根での太陽光発電[写真下]が、生産活動で消費する電力の 30%を賄っているという実績もあります。



●三洋グラビア株式会社(伊那市)

食品を主な内容物としたフィルムパッケージをオーダーメイドで一貫生産している企業です。国際規格に適合した品質保証体制と食品安全管理体制による安心・安全な軟包材の提供を心掛け、持続可能な社会に貢献する“がんばるパッケージ®”による百年企業を目指し、エコアクション 21、FSSC22000 の認証取得や県 SDGs 推進企業への登録も行っています。

ドライラミネート工程における接着剤塗布量の見直しや、接着剤の再利用による使用量の削減、リデュース、モノマテリアル化、独自の印刷技術を用いた品質向上と有機溶剤等の排出量削減との両立、バイオマスインキの使用[写真右上]、廃溶剤や廃インキの再利用[写真左/溶剤再生装置]など、様々な工夫を意欲的に行っています。



さらに自社工場での太陽光発電の導入・SDGs 私募債導入による寄附・フードバンク活動や、地元の環境ピクニック創設メンバーとして、20 数年にわたり、社員参加による天竜川清掃[写真右下]といった社会貢献活動も行っています。



「信スマ」へのご参加ありがとうございました!

長野県センターは、県などと共催で、9月15日から9月30日までの2週間、「信州スマートムーブ通勤ウィーク」を実施しました。結果は次のとおりです。



●参加事業所	160 事業所
●のべ参加者数	39,119 人
うちノーマイカー	9,430 人
同 エコドライブ	29,689 人
●CO ₂ 削減量	78.5t-CO ₂
(約 7,700 世帯の 1 日あたりの排出量に相当)	



夏休み植生子どもカレッジ「わくわくエコ教室」 8/9(木)pm @千曲市植生公民館

1時間余の出前授業を実施しました。参加した児童12名(小2~6年)の感想と共に紹介します。

■うんこドリルで地球温暖化防止
パワーポイントを使ったお話。



- ★クイズをやった、いろいろなことが知れて、楽しかった。
- ★未来の地きゅうのことをして、いまできることがわかりました。
- ★でんきのむだづかいをへらそうと思いました。

■かんきょうマークかるた
30種類の環境マークが学べる県センターオリジナルかるた。



- ★みんなでとりあつたのしかなかったし、かんきょうのマークをいっぱいしることができた。
- ★マークをたくさん覚えていこうと思った。

■発電いろいろ

ソーラー、手回し、微風風力、エアロバイクなど。



- ★いろいろなことをして電気がつけられることがわかった。風だけで(ライトの)光がひかったからびっくりだった。
- ★いつも電気のはきは気にしていなかったけど、ちきゅうおんだんかがすすむと考えると、「あ！電気けさなきゃ」と思うようになった。
- ★どんなしくみで発電しているか、くわしく知りたい。

■おかいものビンゴ

HANYU

会場をスーパーに見立て、7コーナーから商品パッケージを1つずつ選び、ついているマークでビンゴに挑戦。



- ★いろいろな物にマークがついていておもしろかった。
- ★おかいものはおつかいでふだん行っているけど、今日ならったことを活かして、おかいものをしていきたい。

推進員「ふらっと」インタビュー あるがもとえ 有賀 元栄さん(辰野町)

—中部ブロック合同推進員研修会*(9/6(木)-7(金) 岐阜で開催)はいかがでしたか？

*県センターは職員2名と有賀推進員、市センターは職員1名、推進員1名が参加しました。



有賀推進員(以下有): 1日目の「相互ミニ体験」で他県の推進員の活動事例を実際に見せてもらったり、情報交換会や2日目の「みんなの相談タイム」などでディスカッションしたり、なかなかない機会でも貴重な経験になりました。

—有賀さんは第4期・5期に推進員を務められ、その後第10期の後半から再度推進員にご応募いただきましたが、以前と比べていかがですか？

有: 推進員に求められる知識が高度になっていると感じます。7月に開催された「環境白書を読む会」に参加するなど、知識のアップデートに努めています。

—最近の活動や、今後の活動の予定をお聞かせください。

有: 私は防災士ですので、防災関係の講演会の依頼が多いのですが、防災と温暖化の問題は切り離せない関係にあるため、両者を組み合わせて伝えています。7月に石川県で開催された「地域防災トップセミナー」の基調講演では、「触れる地球」の画像を使いながら話しましたし、先日は松川町で「災害ボランティアセンター立ち上げ訓練」に参加し、「気候変動と災害」をメインテーマの1つとした講演を行いました。今後の活動としては、来年1月に開催される辰野町の「ゼロカーボン・アクション 2023」の企画に携わっており、辰野高校の生徒さんによる気候変動に関する研究成果の発表など、辰野町における本格的なゼロカーボン推進のスタートに相応しいイベントになるよう活動していきたいと思っています。

☀️熱かった夏を振り返る☀️



サンキャッチャー
になろう

8/3(土) am @若里公園(長野市)

みどりの市民、長野県NPOセンター(いずれも NPO 法人)と共同で実施、親子 10 組が参加しました。木陰で、信州大学工学部・高木直樹名誉教授から、地球温暖化の現状や再生可能エネルギーの活用などを学んだ後、いよいよソーラークッカーで調理体験!太陽の光だけで水が沸騰(95℃)し、ゆで卵・ゆで枝豆ができたことに、参加した親子はみな驚き、笑顔で頬張っていました。日なたの芝生は 35℃、木陰は 28℃!太陽と緑の大切さを肌で感じるひとときになりました。



ゼロカーボン縁日

8/5(土)
@当協会(長野市)

くらしふと信州(ゼロカーボン社会共創プラットフォーム)と協働で開催。長野びんずるに集まった方々に、5つのミッションに挑戦してもらいました。第1会場のくらしふと信州が「①牛乳パック射的」「②謎解き」「③クイズ」、第2会場の当協会は「④計測せよ!」「⑤発電せよ!」を担当。約 150 人が、赤外線放射温度計を使って、日なた、グリーンカーテンの日かげ、色紙などの温度を測ったり、エアロバイク発電機をこいで扇風機を回したり、発電床の上で足踏みし、微風風力発電機を団扇であおいで、ライトをつけたりして、ミッションをコンプリートしました。



飯綱高原サマーキャンプ

8/1(土)~3(日)
@アソビーバ ナガノパーク

(有)ノア(長野市高田)が主体となる「自然体験と ICT 実行委員会」が主催する 2 泊 3 日の「2023 信州・飯綱高原サマーキャンプ」が、7 月と 8 月に各 1 回、小中学生を対象に開催されました。

キャンプの目的は、自然体験で得た知識をタブレットに記録し深掘りすることです。当協会もこの趣旨に賛同し、市センターが講師を務め、「環境教室」を実施しました。

日頃体験できない「発電鍋」[写真右上]の実験は、火起こしから始まって焚き火を作り[写真右]、鍋をかけ、水と鍋底の温度差ができると発電される仕組みを、接続した LED ランプが点灯することで体験できました。他にも「エネルギー比較実験器」[写真下右]やレモン電池、水素を使った燃料電池などの実験も好評でした。

森林観察[写真下左]なども含め、体験して学んだことをタブレットに記録し、一日を過ごしました。



ながの環境フェア 2023



9月24日、リサイクルプラザ・サンマリンながのにて「ながの環境フェア 2023」が開催されました。昨年まではコロナ対策として密を避けるために開催期間を長めにとっていましたが、今年は1日での開催となりました。当日は天気もよく、早朝から多くの人がつめかけ、10時の開会式から大変な賑わいでした。展示や体験、ステージ発表と内容も盛りだくさん！会場を回るスタンプラリーも好評で736人が参加、来場者数は約2,800人にのぼりました。市センターは、エコドライブシミュレーター体験[写真右]、〇×クイズ、スマートハウス化応援隊のPRなどを行いました。



昨年度に引き続き

再配達削減キャンペーン実施中！

宅配便の再配達削減により、宅配トラックからのCO₂排出低減と、ドライバーの不足や長時間労働の改善を図るため、個人荷物の職場受取などの取組を実施していただける賛同事業所を募集しています。

■実施期間 令和5年10月～12月

■賛同対象の事業所

以下の①又は②の取組を実施する県内所在の事業所

① 従業員が「職場受取*」できるようにする。

② 従業員に荷物を1回で受け取る啓発を行う。

*職場受取とは、従業員が個人の荷物(宅配便)を職場に届けてもらうこと

卓上ポップ



特設サイト



- 賛同方法 特設サイトからお申し込みください。
既にご賛同いただいている場合、再度の登録は不要です。
- その他 ご希望の場合、賛同事業所名を特設サイトに掲載するとともに、広報用卓上ポップ[写真]をお送りします。



信州冬の省エネキャンペーン 12～2月

省エネで信州を暖かく 2050 ゼロカーボンの実現に向けて



事務局
だより

人事異動のお知らせ (9/1 付)
齊藤 明雄 企画部長に就任

新会員
紹介

長野テクトロン株式会社
賛助会員 北信支部

【発行元】〒380-0835 長野市新田町 1513-2 (82 プラザ長野)

□「エコシン」は「エコ信州」の略称です
2023年11月11日発行

●一般社団法人 長野県環境保全協会

TEL:(026)237-6620 FAX:(026)238-9780 E-mail:nace@janis.or.jp https://nace.main.jp/

●長野県地球温暖化防止活動推進センター

TEL:(026)237-6625 FAX:(026)238-9780 E-mail:nccca@dia.janis.or.jp https://nccca.or.jp/

●長野市地球温暖化防止活動推進センター

TEL:(026)237-6681 FAX:(026)237-6690 E-mail:eco-mame@dia.janis.or.jp https://www.eco-mame.net/

